

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073500284		
法人名	医療法人 恵真会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	福岡県糸島市志登567番地1 (電話) 092-330-6111		
自己評価作成日	令和 3 年 5 月 31 日	評価結果確定日	令和 3 年 8 月 3 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

糸島の名所や美しい季節の様子を話題に取り入れてみたり、壁に貼ったり、ドライブにお連れするなどして、地元糸島がいつまでも心に残るようにと願って寄り添っている。ユニットケアにより職員が利用者様一人ひとりの個性と生活のリズムを尊重し、心身の安らぎを感じていただける様に心がけている。主治医や看護師と連携を取り状況報告や指示を受け、いつまでも健やかに、穏やかに生活を維持していただける様に支援をしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 3 年 6 月 29 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

敷地内に同法人の介護老人保健施設が隣接する1階建ての建物で、すぐ近くに川が流れ、美しい田園に囲まれている。職員は、利用者一人ひとりの個性と、これまでの生活歴を尊重し、それぞれの希望や生活習慣をケアに取り入れて、豊かに暮らせるように、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。家族会が設置され、年1回アンケート調査を行い、結果を集計して運営推進会議や書面にて報告し、フィードバックしている。家族からも多くの意見が出て、家族の思いや意向の把握に努められている。共有の空間には、季節の装飾や生花が飾られ、利用者が心地よく過ごせるよう事業所の環境整備にも配慮されている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と職員室に理念を掲示している。年間目標・毎月の目標を、毎朝申し送り時に職員全体で唱和し、実践につながるよう取り組んでいる。	事業所の理念があり、毎日の朝礼で唱和している。職員は、利用者一人ひとりの個性と、これまでの生活歴を尊重し、それぞれの希望や日課等の生活習慣をケアに取り入れて、豊に暮らせるよう、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策で交流を控えているが、例年であれば年に2回地域の保育園児との交流や年に1回の校区の文化祭に作品を出展し見学に行っている。老健との合同行事あじさい祭りで、地域の方々との交流をしている。	法人で自治会に加入している。地域の清掃活動や校区の文化祭に利用者の作品を出展して展示会の見学に出向いたり、法人主催で花火大会を開催している。年2回、地域の保育園からの慰問がある。RUN伴に利用者職員と一緒に参加したり、初詣に行き、地域住民と交流する機会がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページ等でホームの様子をお伝えしたり、「何かお困りの事など御座いましたらご相談下さい」と呼びかけをしている。また、見学や入所のご相談に来られた方には、認知症の方への接し方や、認知症に対する理解を深めていただけるように、お話しをさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、めぐみ来所にての運営推進会議は中止になり、書類配布による報告をしている。運営推進委員の皆様には、ご意見、ご要望など御座いましたら、ご指示をお願いしますと文書にてお願いしている。	運営推進会議が2カ月に1回開催され、利用者、家族、ボランティアの方、民生委員、地域包括支援センター、市職員、区長などの参加がある。最近では新型コロナ感染拡大予防のため、書面での開催となっている。利用者の状況や事故報告、事業所の取り組み等を報告されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回めぐみ内での情報報告を、市役所、運営推進委員の方に書面で報告している。現在は、新型コロナウイルス感染症対策の為、運営推進会議は中止になっている。	事業所の状況報告や運営推進会議の内容報告を書面にて行っている。市町村担当者へ法改正や介護保険制度の事で問い合わせや相談を行っており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束会議を行い意識向上に取り組んでいる。玄関施錠に関しては、車の出入りも多く、すぐ横は川が流れて危険な為、入居時に家族に説明し同意書をいただいている。職員の配置に余裕がある時など不定期ではあるが、玄関の施錠を解除している。ホームの勉強会等で身体拘束をしないケアはスタッフも理解している。	鍵はオートロック式で日中は施錠されている。家族に施錠についての同意をとっており、職員配置が多い時間帯には開錠して身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。職員は利用者の外出傾向を把握しており、落ち着かない時は外を一緒に散歩したり、利用者につき添っている。3カ月に1回、全職員が参加して身体拘束委員会が開催されている。	日中の鍵の施錠については、更なる検討や取り組みに期待する。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	感染症対策の為、外部の研修は難しい状況ではあったが、めぐみの勉強会、隣接する老健施設の勉強会に参加した。マニュアルを基に職員全員が理解し、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に資料を渡し、ご家族にも説明を行っている。ホーム内でも毎年勉強会を行っているが、これまでに利用者様で活用された方はいない。	成年後見制度や日常生活支援事業についての資料が作成され、入所時に家族に説明されている。事業所で研修担当者を決め、担当者にて研修テキストを作成して毎年研修会を開催している。	研修会を開催したときは、報告書の作成に期待する。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書を基に十分な説明を行っている。改定時には書面でご説明をし、ご納得いただいた上で、同意書にサインをいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に、利用者様・ご家族からのご意見・ご要望に対し可能な限り応えるようにしている。年1回家族アンケートを行い、ご家族の感想・要望等をお聞きしている。アンケート結果を集計し、めぐみ会議にて検討し、運営に反映するようにしている。今年度は家族会・運営推進会議が開けないうえ、報告書を配布し、ご意見・ご教示をいただくようにした。	年1回、家族会でアンケートを実施して、意見を聞いている。アンケートは集計され、結果を運営推進会議や文書で報告して、フィードバックしている。家族からは買い物や、これまでの生活習慣を継続させてほしい等の意見が出ており、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入職後3ヶ月で、法人本部との面談を行い、職員の意見や業務に関する思いを聞き取りしている。また、毎月行っている施設会議で、意見を交換する場を設けている。発表された意見・提案は、代表者・管理者・リーダーで協議し、反映する努力をしている。	行事の企画など、職員から提案があれば、随時反映させている。また、ユニットリーダーが職員の悩みを聞き、ホーム長へ報告して、個人面談を行う機会がある。外部評価の自己評価では職員一人一人の意見を聴き、各ユニットで取りまとめて、今後の運営に生かせるよう取り組まれている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意とする分野で、その能力を発揮できる様に担当を決めている。又、休み希望や労働時間の希望を可能な限り聞き、向上心を持って働けるよう、資格手当を支給し、介護福祉士を受ける為の実務者研修費用は全て法人で負担している。処遇改善加算、特定処遇改善加算はIを取得し給与水準の向上を図っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集の際は、性別・年齢等の条件を設けておらず、希望者は全て面接している。採用にあたっては、学歴・前職に関わらず仕事に対する姿勢により決めている。	62歳定年制となっておりますが、希望があれば、65歳まで再雇用制度を導入している。年に1回、接遇チェックシートを記入して、自身を振り返る機会を設けている。1年間の目標を定めて、目的意識をもって働けるよう努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年、人権教育の施設内勉強会を行っている。勉強会を通して、利用者様の人権を尊重するように努めている。	事業所で研修担当者を決め、担当者にて毎年研修会を開催している。研修に参加できなかった職員へは、研修担当者が作成した研修のテキストを回覧して、伝達している。	研修会を開催したときは、報告書の作成に期待する。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症対策の為、法人外の研修には参加出来てはいない。隣接する老健施設の研修に参加したり、老健施設の研修資料を参考にしたりしている。新しく入職した職員は勤務内容を把握するまで、先輩職員の指導の下、各業務を習得している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着部会、事業所連絡会のある時は必ず出席し、交流機会を持つようにしている。地域密着型部会では、グループラインを作成し、情報の交換などを行い、サービスの向上に生かすようにしている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に、ご本人とご家族の要望、不安な事などを聞き、まずは、ご本人の話を傾聴する事から始めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に、ご家族の状況を聞き理解するようにしている。ご家族の状況に合った対応を行い信頼関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望をお聞きし現在、何を必要とされているのか情報収集に、努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話を傾聴し、知らないことを教えていただける存在である。ベランダの花の水やりや、食事後の食器洗い等を手伝っていただいている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況報告や変化等は直ぐに伝え相談している。医療機関受診やご本人が必要とされている物は、ご家族にご協力していただき共に支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で馴染みの場所にお連れしたり、ご家族やご親類からの電話を取り次ぎ関係が途切れないよう支援に努めている。	入居時に利用者や家族から入所前の生活歴や馴染みの場所、人について情報収集を行っている。職員と情報共有して把握に努めている。馴染みの場所や自宅近くへのドライブを個別に取り入れている。家族から荷物が届いた時等には、利用者本人が電話で直接話せるよう取り次いで支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席など、利用者様同士の相性を考慮し仲良くしていただける様支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても様子を見に行ったり、ご家族の方に連絡をとり、いつもご相談や支援に応じる体制に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中で様子や言動を見て、一人ひとりの思いや希望を尊重している。ご家族からも思いを聞くようにしている。	利用者の生活に対する意向は家族からの聞き取りも交え支援している。ウクレレが趣味である利用者は居室での演奏が日課へとつながった。コミュニケーションが困難な利用者に対しても、日頃から表情や仕草などの観察を行い、本人本位で無理のないよう支援に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族からの聞き取りや情報提供で把握し、出来るだけ生活環境を変えないように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に目を通し、朝の申し送りで現状の把握や体調の変化に気づく様に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスや職員同士の情報交換。1ヶ月に1回行われるめぐみ会議での情報交換で意見やアイデアを出し合っている。主治医に状況説明を行い指示を仰いでいる。	アセスメント、モニタリングをもとに家族と介護支援専門員、利用者担当の介護職員が定期的に話し合い介護計画を作成している。計画書は本人の意向に沿った生活、医療面の方向性など具体的な内容、表現で記載している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録で共有し気づきや変化など申し送りノートに記入し、共有を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診は、基本ご家族にお願いしているが、付き添えない場合は職員が行っている。利用者様で、朝コーヒーを好まれる方は要望に沿えるよう提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の方の協力をいただき感染対策を施しながら、消防訓練を行っている。コロナウイルス感染症対策の為、保育園児の慰問も中止になっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係を大切に受診してもらっている。受診が困難な時は、往診していただける病院を紹介し、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医については、本人や家族の希望を最大限に受け入れているため、入居前からの医療的管理がスムーズに継続できる。受診が必要な場合は、家族送迎や病院送迎、介護タクシーを利用している。事務室には個人別にかかりつけ医一覧が掲示され、緊急時などスムーズな対応ができる。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務している看護師が定期的に来設され、相談や報告を行っている。又、利用者様のかかりつけ医の看護師にも相談、報告を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、面会に行き看護師との情報交換を行っている。又、ご家族とも連絡を取り早期退院が出来る様働きかけている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、急変及び重度化した場合の意向を聞きアンケートに記入してもらい、説明も行い今後の方向性を話し合っている。	入居時に利用者・家族へ終末期の介護について方向性を確認する。事業所での医療的管理が困難な場合は、同法人の介護老人保健施設を紹介するなど、利用者・家族に不安がないよう支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加したり、職員室に急変時対応マニュアルを開示し落ち着いて対応出来る様に確認している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	朝礼時、火災マニュアルを唱和し確認を行っている。年に5回、避難訓練も行い年1度は消防署立ち合いをお願いしている。消火器を実際に使用したり、災害対策はホーム内の勉強会に取り入れている。	避難訓練は消防署と連携し、夜間想定も含み年に5回実施している。自然災害にもスムーズに対応できるようマニュアルも具体的に明文化されわかりやすい。備蓄は事業所内に準備しているが、不測の事態があれば隣接する老人保健施設とも連携し共用することとなっている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけや対応を行っている。トイレ誘導時はドアやカーテンを閉めて介助を行っている。又、居室に入る時はノックをし利用者様に許可を得て入っている。プライバシー保護に関しても勉強会を行っている。	職員は利用者へのプライバシーが不適切にならないよう毎月接遇目標を立て実践している。また、年1回「接遇に関するチェックシート」にて自己の対応について振り返ることができている。特に居室への出入り、職員の会話、声の大きさ、排せつ介助などは配慮するよう努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴順番など希望や思いを聞き自己決定出来る様に支援している。利用者様が嫌いな食べ物の際は、違う物を提供している。又、居室にご主人のご仏壇を置かれていた人には、朝、ご飯をお供えされるのでご飯を提供している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、起きれない利用者様は、目が覚めるまで寝ていただいたり、その方のペースを大切にし、ご本人の意向を大事にしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容や洋服を選べる方は、ご本人の意思に任せている。困難な方は、髪を整えるお手伝いをし、服装は季節や温度に合ったものを支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使ったり、ホーム内で育てた野菜を利用者様自身に収穫してもらい、グリーンピースの皮むき等の下処理をしていただいている。食事形態も一人ひとりに合わせて提供している。食器洗い床掃除も無理のないように手伝っていただいている。	食事は三食とも事業所内で調理するため家庭的な環境が提供できている。事業所で栽培した野菜も食材として取り入れるため、利用者は収穫時期が楽しみとなっている。手作りおやつやサンドイッチパイキングなど企画され、食に対する楽しみを大切に支援している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々のケアの中で把握し、水分量・食事量・食事形態は一人ひとりに合った量を提供している。献立に関しては、食材業者の栄養士がメニューを作成し、その後見直しを行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の口腔ケアの声掛けを行い、見守りや介助を行っている。義歯の方は定期的に洗浄剤を使用している。義歯のない利用者様は口腔用スポンジブラシを使用している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々のケアの中で排泄記録を付け把握している。一人ひとりの排泄パターンを理解し声掛けやトイレ誘導を行っている。	職員は利用者個人の排泄サインは何か観察しスムーズで適切な支援を目指している。フロアで失敗していても周囲に気付かれないような対応を心がけ、利用者の羞恥心が軽減できるよう努めている。パッド使用は職員間で適切な種類が検討され、家族へ現状を報告し、同意を得ている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の状況を把握しヨーグルトや牛乳を飲んでもらっている。又、かかりつけ医に相談し下剤で調整している。無理のないよう体操などを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、希望の時間帯がある方は、それに合わせて入浴をさせていただいたり、個人の状況に合わせた声掛けをしている。	入浴は週2回、曜日を決めて実施している。入浴時間帯の希望や臨時的な利用も受け入れ、入浴を楽しめるよう季節に応じてゆず湯など実施している。車椅子の利用者はシャワー浴対応を行っている。	臨時的な場合だけでなく、日頃から入浴日や回数を決めず、利用者の希望に合わせた入浴支援を行うことに期待する。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子に合わせて、昼寝の必要な方には時間を設けている。居室にてテレビを見られたり自由に過ごされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し個々の処方箋を個々のカルテに保管し確認出来る様にしている。薬の変更や新たな薬が出た場合は、申し送りノートやバイタル表に記入し症状の変化に気を付けている。分からないときは、薬剤師に相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならないように、新聞折やタオルたたみ、いりこの頭取り等、座って出来るお手伝いを支援している。率先して食器洗いや床掃除をされる利用者様には、無理が無いように声掛けを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、バスハイクは中止しているが、天気のよい時はドライブや散歩に出かける様に努めている。	現在は週2日から3日事業所の周囲を散歩し、外気浴できるよう努めている。感染症まん延防止のため外出行事は実施していないが、通常の生活に戻ればバスハイクや外食、イルミネーション見学などを企画する予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用する機会が無いので、持たれていない。必要な時はご家族に相談し使用できるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様宛の手紙や小包が届いた時は、ご本人に渡している。携帯電話を持たれている利用者様は、居室で自由に電話されている。ご家族からの電話も取り次ぐように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や花を飾り楽しんでいただいている。ホーム内に温度計を設置しその都度調整している。雑音にならないようにテレビのチャンネルは両ユニットとも同じチャンネルにセットしている。	共用空間は清掃が行き届き清潔感がある。壁には利用者の作品が丁寧に飾られてあり廊下や浴室など物品も整理してある。普段からテレビの音も調整され食事時はBGMへ変更するなど利用者に配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓際に長椅子を配置し、外を見たり談話出来る様、居心地の良い環境作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使用されていた布団や家具を持って来ていただき安らげる居室作りを心掛けています。利用者様の中には、ご主人のご仏壇を持って来られ、安心して過ごされておられる方もいます。	居室は使い慣れた家具、テレビ、家族写真、仏壇などが持ち込まれ、利用者個人の嗜好に応じた対応が可能である。窓も大きく日当たり良好で、採光をカーテンで調整している。床はフローリングでワックスが掛けられ気持ちよく過ごせる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりも設置している。トイレや居室の表札を大きく分かりやすく掲示している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			<input type="radio"/>	②家族の2／3くらいと
			<input type="radio"/>	③家族の1／3くらいと
			<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のようにある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
			<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			<input type="radio"/>	④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			<input type="radio"/>	②職員の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③職員の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			<input type="radio"/>	②家族等の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③家族等の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内事務所に、理念を掲示している。朝礼時に理念を唱和する事で意識付けが出来ており、理念の「地域の中でみんな仲良く思いやりのある心豊かな暮らしを目指します」の実践に繋げるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策の為、地域の文化祭、保育園児との交流等も中止になり、日常的な交流は出来なかった。しかし、事業所の職員が感染症対策を講じながら、地域の草取りに参加するなどの交流を行った。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページ等でホームの様子をお伝えしたり、「何かお困りの事など御座いましたらご相談下さい」と呼びかけをしている。また、見学や入所のご相談に来られた方には、認知症の方への接し方や、認知症に対する理解を深めていただけるように、お話をさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、めぐみ来所にての運営推進会議は中止になり、書類配布による報告をしている。運営推進委員の皆様には、「ご意見、ご要望など御座いましたら、ご教示をお願いします」と文書にてお願いしている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターへオムツ券の相談や空床情報の連絡をしている。市役所の生活保護課の担当の方とは毎月連絡をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠に関しては、車の出入りも多く、すぐ横は川が流れて危険な為、入居時に家族に説明し同意書をいただいている。職員の配置に余裕がある時など不定期ではあるが、玄関の施錠を解除している。ホームの勉強会等で身体拘束をしないケアはスタッフも理解している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	感染症対策の為、外部の研修は難しい状況ではあったが、めぐみの勉強会、隣接する老健施設の勉強会に参加した。マニュアルを基に職員全員が理解し、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームの勉強会でも必ず取り入れている。入居時に、ご家族にも説明している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時にも話し合い、十分な説明を行っている。今年、介護報酬改定の説明は書類を郵送し、質問には電話にて対応し、同意書をいただいた。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に、利用者様・ご家族からのご意見・ご要望に対し可能な限り応えるようにしている。年1回家族アンケートを行い、ご家族の感想・要望等をお聞きしている。アンケート結果を集計し、めぐみ会議にて検討し、運営に反映するようにしている。今年、家族会・運営推進会議が開けない為、報告書を配布し、ご意見・ご教示をいただくようにした。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入職後、3ヶ月で法人本部との面談を行い職員の意見や業務に関する思いを聞き取ったりしている。また、毎月行っている施設会議で、意見を交換する場を設けている。発表された意見・提案は、代表者・管理者・リーダーで協議し、反映する努力をしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意とする分野でその能力を發揮できるように担当を決めている。又、休み希望や労働時間の希望を可能な限り聞き、向上心を持って働けるよう、資格手当を支給し、介護福祉士を受ける為の実務者研修費用は全て法人で負担している。処遇改善加算、特定処遇改善加算はIを取得し給与水準の向上を図っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集の際は、性別・年齢等の条件を設けておらず、希望者は全て面接している。採用にあたっては、学歴・前職に関わらず仕事に対する姿勢により決めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年、人権教育の施設内勉強会を行っている。勉強会を通して、利用者様の人権を尊重するように努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症対策の為、法人外の研修には参加出来てはいない。隣接する老健施設の研修に参加したり、老健施設の研修資料を参考にしたりしている。新しく入職した職員は勤務内容を把握するまで、先輩職員の指導の下、各業務を習得している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着部会、事業所連絡会のある時は必ず出席し、交流機会を持つようにしている。地域密着型部会では、グループラインを作成し、情報の交換などを行い、サービスの向上に生かすようにしている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人との面談を行い、生活歴・趣味等を把握し、それを基に安心され慣れられるよう、そばに寄り添う関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時にご家族の思いをお聞きしている。又、入居後も不安な事や要望を伺えるように、信頼関係を構築する努力をしている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で、ご本人とご家族の困っておられる事、不安な事、要望等をお聞きして何が必要なのかを見極められるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が話される昔の事を傾聴したり、又、一緒に行動し、生活に活かせる事は、職員と共に、職員と暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時、近況報告を行っている。県外のご家族には、電話による報告が多いが、その際にはご本人とも電話で話している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会のご本人も大変喜ばれるので、楽しく過ごされるよう配慮している。又、ドライブにお連れするときは、馴染みの所にお連れするようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性等を考慮したテーブル配置をしている。レクリエーション等を通じて仲良くなれるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれた利用者様が、なかなか食事を摂れない事を、ご家族が相談に来所され、アドバイスさせていただいた。入院により退所される場合も、「何かありましたらいつでも相談に来て下さい。」とお伝えしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン立案時間取りを行ったり、日頃のコミュニケーションの中で、希望を把握している。本人の気持ちを踏まえてケアに取り組んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面談時、情報提供で確認し把握している。生活歴等をご本人や、ご家族からもお聞きしている。又、馴染みの物を持ってきていただくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・バイタルチェック表に、必ず目を通して。一人ひとりの表情言動を観察し現状把握に努め、状況に応じた対応を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時にカンファレンスを設けている。それぞれの意見とスタッフの気づきや思いを鑑みて利用者様の状況に即したケアプランを立案している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートに気づきや変化を記入し、情報の共有を行っている。月1回カンファレンスを行い実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分の歯や、飲み込みが悪い方、車椅子の座位保持が難しい方等、専門家のアドバイスをいただいたり、ご家族のご協力と共にサービスの向上に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の方の協力をいただき感染対策を施しながら、消防訓練を行っている。コロナウイルス感染症対策の為、保育園児の慰問も中止になっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医の訪問診療を受診している。急な受診になった時は職員が送迎したり、同行したりして適切な医療を受けられるように支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務している看護師に状況報告、相談をしている。利用者様のかかりつけ医の看護師にも相談をしている。利用者様が適切な医療を受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネージャーが病院のソーシャルワーカーと情報の交換を行い情報の共有を図っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化についてのアンケートを取っている。ご本人の状況に応じて今後の方向性をご家族や主治医と話し合い支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、めぐみ勉強会にて、急変・事故発生時の対応を学んでいる。落ち着いて、行動出来る様日々意識している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	朝礼時、火災マニュアルを唱和している。年5回の避難訓練を行い、ホーム内の勉強会にも取り入れている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは早口にならないように、ゆっくりと丁寧に話すようにしている。プライバシー保護の勉強会での学びをもとに介助している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、自己決定出来る様に声掛けを行い促している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や、共同生活での制限を感じられないように心がけている。お一人お一人の日々の過ごし方を観察し、その方らしい過ごし方が出来る様に、利用者様の意向を大事にしながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、食堂に来られる前に鏡を見られるように声掛けしている。髪を整える事が出来ない方には、職員がお手伝いしています。洋服を自分で選べる方は自分で選んでいただいています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物、行事食を取り入れている。ホームで育てた野菜を自分達で収穫し、食べる楽しみを味わっていただいている。一人ひとりにあった食事形態を提供している。盛り付けや片付けをお手伝い出来る方には一緒にお願いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量の確保、食事量、形態は日々のケアの中で把握している。献立は食材業者の栄養士が立て、その後ホームで見直しを行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来る方には、声掛け見守りを行っている。口腔ケアの困難な方には、歯科医、歯科衛生士より、指導を受け介助している。義歯洗浄は職員が行っている。口腔内に異常があれば、歯科受診を進めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握できるように、記録を付け、その人に合った習慣を活かした排泄ケアに取り組んでいる。定期的にトイレ誘導を行い、陰洗や下清拭にて清潔を保っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの主治医に相談して、その人に合った便の薬が処方されている。服用に関しては、職員で話し合ったり、直接ご本人に尋ねて確認している。ヨーグルトや体操を取り入れ便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日はユニットごとに日を決めている。時間帯は、希望や状況に合わせて入浴していただいている。又、利用者様に楽しんでいただける様に、ゆず風呂等も行うこともある。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態を把握して、その方の生活習慣を大事に見守り支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに処方箋を綴じいつでも確認出来るようにしている。薬の変更時など申し送りノートやバイタル表にも記入し症状の変化を把握出来る様にしている。又、疑問に思う事は薬剤師にすぐ連絡を入れている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの身体能力に応じて役割を持っていただいている。自分から進んでされたことを、日記に書いて嬉しそうに見せられている。お手伝いしていただいた時等、その都度感謝の言葉を伝えている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、ドライブに出かけても車から出る事は少ないが、気分転換にお連れしている。病院受診の時も感染対策に注意を払い外出している。しかし施設敷地内の散歩は出来ている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状況に応じて、所持金を持たれている方もいる。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を4名の方が持たれている。充電器の確認をしている。操作が難しい方には、職員がお手伝いしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に温度計を設置し、室内温度に配慮している。日中の光や暗闇の音にも気を付けている。テーブルには、季節の花を飾っている。廊下には、ほのぼのする話題を貼って楽しんで貰っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルには気の合った利用者同士で座って頂くように配慮している。窓側には日向ぼっこが出来る様に長椅子を置いてくつろげる空間を工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾り物、家族の写真等持ってきていただいて、心地良い空間作りをしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。車椅子利用者用に食堂に新しく洗面台を設置した。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2／3くらいと		
				③ 家族の1／3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
			○	③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2／3くらいが		
				③ 職員の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2／3くらいが		
				③ 利用者の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2／3くらいが		
				③ 家族等の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		